

日中経済交流研究会新聞

日中経済交流研究会 2月例会報告

ミャンマー視察報告会&パネルディスカッション

～ミャンマー視察団、3名による帰国報告～

日 時 2020年2月5日(水) 18:30 より(受付開始 18:00)

場 所 大阪市生涯学習センター / 参 加 者 51名

パネラー 三恵ハイプレジジョン(株) 落合 良寛氏

株式会社三栄金属製作所 文敬祚(山下裕司)氏

(株)電研社 野村 明宏氏

先月号では、ミャンマーの現状を広報部からの視点で報告させていただきましたが、今回は、視察団に参加した3名の方にそれぞれが観て感じたミャンマーを、プラスワン委員長の中野氏が進行役となり、シンポジウム形式でお話いただきました。また、今回ツアーをコーディネートくださった(株)ミャンマーサポートの土井ミミレ氏と中森氏からミャンマーの現状や将来性の解説、そして参加者からの質問にお応えいただきました。



左から、中森氏、土井氏、野村氏、文(山下)氏、落合氏

ミャンマーという国の印象は?

落合氏 とても信仰のあつい人々が多いというのが最初の印象です。工場団地はまだガラガラ状態で、中小企業はまだまだ進出はすすんでいないようです。ローカルの工場も少しだけ、観させていただきましたが、発注するには指導者を入れてやっていかないと満足のいく製品はまだできないと感じました。しかし、日本語学校で日本での実習を希望する学生の顔を見ると、彼らはとても利発そうで、機会があればぜひ一緒に働いてほしいとも感じました。

山下氏 街の様子は、私が2013年にベトナムに行き始めたころ、ベトナムもこんな感じだったなーと懐かしく思いました。人に関しては、かつてのベトナムがそうだったように、今(初期である)ミャンマーから日本へ来る学生はとても優秀な人が来ているのだと思います。目の輝きも違いますし、やる気に満ちあふれています。しつてもよく行き届いていて、温厚で親日です。私も機会があれば、ミャンマーの方を雇用したいなと感じました。

今後のミャンマーについてどう思われますか?

山下氏 ミャンマーを活かすのにキーになる国は、タイではないかなと感じています。タイは先進国になりつつあります。ミャンマーは、タイとも国境を接しているので実際国境付近ではタイへ働きに行っている人もいと聞きました。今後はタイのサプライヤーとして活路を見出すといいのではないかなと感じました。

野村氏 義務教育がなく、貧富の差が大きいのでまだまだだなと思われる人もいるかもしれませんが、5年前にきた印象から比べるとどんどん良くなっていると感じました。しいて言うなら、中国のように急激に変化するのではなく、できれば

ゆっくりと成長していったほうがいい。そうすれば中小企業でも進出しやすくなるのではと感じました。

ミャンマーサポート・土井氏&中森氏

中森氏 現在主に中国が進出してきてさまざまな投資や工事をしていますが、井戸を掘っても掘るだけで、現地の人がそれを管理することも維持することも難しい状況です。しかし、粘り強く教育や投資を行うことで今ある問題を克服すれば、ミャンマーは投資する対象としてとても有望で魅力ある進出先の一つではないかと考えています。

土井氏 私は、日本に来て30年になります。これまでは定期的にミャンマーに帰り、校舎を建てたり、井戸を掘ったりなど慈善事業を中心にしていました。現在は、ミャンマーの経済的發展を助け、日本とミャンマーの懸け橋になるべく事業を始めています。ミャンマーは、まだまだ貧しい人がたくさんいます。この人たちを本当の意味で助けるためには、ミャンマーが経済的に発展しないとあらゆる問題は解決していきかないのです。ミャンマーの人は、日本の企業が進出してきてくれることを待ち望んでいます。

まとめ プラスワン委員長 中野氏

ミャンマーの特徴としては、親日国であること、そして信仰もあつく、綺麗好きでトイレもレストランも街中清潔です。今回参加した方々も、とてもいい印象を持って帰国してきたと感じました。ミャンマーの多くの若者は日本へ来たがっています。大学を卒業した優秀な女性までもが「日本の工場で働きたい」と言っています。今は、そうした人たちと出会うことができるいいタイミングなのではないでしょうか。自社の事業に何か関連を持ちたいと思われた方は、私たちにご連絡いただくか、ぜひ一度ミャンマーを訪れてみていただきたいと思います。

まとめ 日中経済交流研究会 広報委員会